

## 1. 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4073400485		
法人名	ハッピーナカオ株式会社		
事業所名	グループホーム はなみずき		
所在地	福岡県太宰府市水城6丁目15-28 (電話) (092) 918-8766		
自己評価作成日	平成 26 年 8 月 13 日	評価結果確定日	平成 26 年 11 月 14 日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

静かな住宅街の中にあり、敷地も広く、畑を作って野菜等を植えている。できたら収穫し、毎日の食卓にお出ししている。利用者同士の触れ合いや、職員とのふれあいを大切にすることを常に意識し、フロアのテーブルを一まとめにしている。また、日中3人の職員の内、必ず1人はフロアにるようにして、利用者との会話を大切にしたり、利用者同士のコミュニケーションが円滑にいくようにしている。地域との交流では、自治会に加入し、地域主催の防災勉強会・防災炊き出し会に参加させて頂いている。また、施設の防災訓練には、地域の方が多数参加し、共に訓練を行い意見交換している。施設からは、地域の方々に介護技術・老人ホームや認知症について講習会を行い、地域との交流を大切にしている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
-------------	---

## 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	平成 26 年 9 月 4 日		

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

太宰府市街が一望できる高台にあり、外観が扇型をした個性的な建物は、開設後10年を経て周辺の閑静な住宅街に溶け込んでいる。広い菜園もあって開放的であり、広めのフロア、眺めの良いバルコニー、明るい館内・居室など、快適な生活ができる環境が整っている。地域住民との交流もあり、信頼関係が構築されている。また、職員全員が理念を共有してのびのびと仕事をしている。管理者を中心に職員の育成にも力を入れており、定期的な研修の他、毎朝マニュアルを全員で読んで理解する時間を設けるなどの取り組みを行っている。利用者の落ち着いた暮らしを求め、地域と一体となって今求められるサービスを職員が一丸となって追求しており、今後の展開に期待の持てる事業所である。

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【I 理念に基づく運営】</b>					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念として、4つの項目をかかげており、毎日の朝礼の際に、唱和している。利用者のケアの方向性で迷いが生じた場合に、理念に添っているのか振り返るように心がけている。	4項目より成り立っている事業所独自の理念には地域密着型の視点もあり、わかりやすい表現で玄関などに掲げられている。職員は毎朝唱和して確認し、理念に沿った日々のケアを全職員で共有して実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会加入し、地域主催の防災勉強会や防災炊き出し会、夏祭などに参加している。また、自施設の火災訓練に地域の方も参加し、意見交換も行っている。地域の老人会にて、自施設職員による介護関係の講習会も実施している。地域に「菜の花会」というカラオケ同好会があり、事業所にお招きして利用者に歌・寸劇を披露していただいている。	町内会・自治会に加入しており、地域の夏祭りや廃品回収などへの参加の他、中学校の職場体験やボランティアの受け入れも行っている。事業所主催の餅つき大会や敬老会の開催にあたっては地域の協力もあり、地域とは日常的に交流がなされ、隣近所の方が立ち寄るような間柄までになっている。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の老人会にて、老人ホームの種類と認知症についての講習会を公民館でおこなったり、介護技術講習会を行ったりしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、事故報告やヒヤリハット報告・状況報告などをおこなっている。また、行事報告やその他、自施設の連絡事項を伝えている。参加者から出た意見は議事録に残し、検討している。	2ヶ月に1回の運営推進会議の開催は定着している。現在の取り組み状況や今後の活動計画等を報告し、参加者からの意見・要望・質問等に基づき、サービス向上に生かしている。利用者家族、市職員、自治会長など地域住民代表、民生委員等で構成されている。	
5	4	○市町村との連携  市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所職員の方々に運営推進会議に出席していただき、入居者の状況や自施設の取り組みを伝えている。また、自施設を運営する上で、疑問点がある場合は相談させて頂いている。	日頃から行政へ運営に対する報告・連絡・相談を、些細な事でもこまめに行い、行政と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。地域のふれあいサロンにて認知症についての話をするなど、事業を通して積極的な協力を行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践  代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は常時施錠しないようにしている。また、ミーティング等で利用者の活動性や認知症の周辺症状について検討し、できるだけ不要な精神薬等は外すように随時検討している。	身体拘束に関する指針・マニュアルがあり、エレベーターや階段にセンサーやベルの取り付けはあるが、日中は玄関を施錠していない。職員は、利用者の外出傾向を把握しており、見守り等を行うと同時に、近隣にも声をかけて連絡体制を整えるなど、安全面に配慮している。研修の機会も設けており、その資料等がある。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修にて理解を深めている。管理者が夜間を中心に利用者の状況や職員の状態を、申し送りやユニットリーダーを介して把握し、注意を払っている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居契約説明の際に、ご家族にパンフレットをお渡しして説明をしている。権利擁護に関する外部研修を受け、その内容を自施設の内部研修にて全職員で学習している。	権利擁護に関する制度については、契約時に加え、昨年度から年1回説明の機会を設け、相談があった場合は随時説明している。職員間での研修も行っており、その資料があり、職員は制度を理解することの必要性を認識している。成年後見制度の利用者は現在1名である。	
9	—	○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約説明の際には、重要事項説明書・入居契約書の各項目に添って説明し、説明後は各書類ごとに疑問点がないか確認している。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケアプランの説明の際に、要望を聞くようにしている。また、2ヶ月に1回お送りしている状況報告書に、ご意見や要望を記入する欄を作り、玄関に設置している意見箱に投書できるようにしている。	食事の献立、座席の配置など利用者の願いや要望等には、日々のかかわりの中で聴取を行い、速やかな対応につなげている。また家族には、年2回開催の家族会や運営推進会議参加時のほか、面会時にも職員から声かけをして、意見や外出についての要望など思いを述べる機会づくりに努めている。意見箱も設置し、苦情の申し出先についても再三説明を行っている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングの際は、職員全員の意見を聞くため、個別に検討用紙に記入して頂いている。また、業務の変更や、新しく何かに取り組む際は、各ユニットリーダーに相談して、現場の意見を聞くようにしている。	自己評価は管理者が全職員の意見を取りまとめている。職員は、ユニット会議などの中で意見や気付き等何でも言える環境にあり、管理者はそれを積極的に運営に取り入れ、信頼関係を築いている。離職を最小限に抑えるよう努め、職員が交替する時に遺漏がないよう注意を払っている。ユニット間での交流もある。	
12	—	○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自施設独自の職員評価表に基づき、年3回の面接を実施している。その際にその職員の良い点・改善点・悩み事・次回面接までの自己目標の話をしている。職員の努力や実績に応じて、パート常勤を正社員常勤に昇格することを検討している。職員のリフレッシュの為、会社主催で夕食会を実施している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の募集・採用については、年齢制限などなく、面接の印象や質問に対する答えなどで検討している。職員がプライベートでも充実できるように、勤務表を作る際は、公休希望を聞き入れている。	採用選考において、性別や年齢等を理由に対象から排除する事はない。また、入職後のスキルアップ、研修への参加、資格取得の支援にも前向きで、勤務のシフトを柔軟に対応するなどの体制も整っており、安心して働ける職場環境を目指している。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	業務中に身体拘束を兼ねて指導はしているが、研修を受けるなど、積極的に取り組んでいる。	人権に関する研修受講の資料があり、職員への伝達もなされている。人権を尊重した支援の実践を、管理者が中心となって取り組んでいる。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に1回、勉強会を開催し、担当職員にテーマを決めて頂き、自己学習して発表する機会をつくっている。外部研修は経験に応じた研修内容を選び、随時受講している。認知症実践者研修については、1人ずつ受講していたくようにしている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	本年度4月より、グループホーム協議会に加入した。まだ一部の職員に限られているが、協議会の集まりの際に他事業所と交流する機会を設けている。取り組み始めの状態である。		
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居後、声かけにて不安なことがないか聞くようにしている。また、御本人のささいな言動を介護日誌に細かく記載するように心がけている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居される際に、ご家族が自宅で介護される際に困っていたことや、施設でどのような生活を希望されるのか聞くようにしている。入居前に病院や施設に入所されていた場合は、入所先に訪問し、情報収集している。居宅におられた場合は、担当ケアマネージャーから情報収集している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援  サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入前に御本人の情報を集めたり、面会に行くなどして、入居時にまず支援しなければならないことが見極められるよう努めている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の現在の能力を把握し、日常生活における食事作り・片付け・洗濯もの等の家事や、共同スペースなどの季節に応じた飾りつけなどを職員とともに行っている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	季節毎の衣類の衣替えや、クリーニング・生活用品の購入など、身の周りのことをご家族と相談している。また、ご本人のストレス緩和のため、ご家族とのお出かけをお願いしている。お出かけが安全に行えるよう、ご家族に外出先での留意点等もお話している。		
22	11	○馴染みの人や場所との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族が営んでいるお店に出向いたり、以前住んでおられた場所の風景を見に行ったりしている。また、ご親戚・友人の方々との面会も特に制限なく、電話や手紙があればご本人にお伝えしたり、お返事したりの支援を行っている。暑中見舞いや年賀状作成の支援もおこなっている。ご家族やご本人の要望にあわせて、入居前のかかりつけ病院の受診等も行っている。	管理者および職員は、利用者の馴染みの場所や人について利用者本人や家族などから把握している。懐かしい場所に職員が同行したり、知人に訪問してもらったり、親族や知人に電話や手紙で連絡をとるなど、利用者が馴染んできた関係や地域住民とのつながりを継続できるよう支援に努めている。	
23	—	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常、フロアで大きなテーブルを囲み、利用者同士の会話やレクリエーション・食事など、一日の大半をフロアで過ごせるようにしている。職員はフロアを空けないように意識し、利用者同士がコミュニケーションを取れるように努めている。寝たきりの利用者も1日に1回から2回フロアお連れし、他の利用者とのコミュニケーションが取れるようにしている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	すべての利用者ではないが、節分の時にスタッフが以前入居されていたご家族の自宅を回ったり、亡くなられた利用者の仏壇にお線香あげに行ったりしている。逆に自施設にお茶を飲みに来られるご家族もおられる。退去された利用者のご家族より、物品の寄付等のご連絡も頂いた。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
25	12	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人やご家族より、今まで歩いて来られた生活歴や仕事・趣味などを伺い、現在の暮らしを通してご本人の希望や苦手なものの把握に努めている。寝たきりや思いが伝えられない利用者には積極的に話しかけることで、返ってきた表情や行動から意向の把握に努めている。	一人ひとりの思いは、まず本人の意向を確認している。意思疎通が難しい利用者は、日頃の言動や快不快の表情等を勘案し、真意を推し測っている。また、家族や以前利用していたケアマネージャー・事業所へ確認している。	
26	—	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活ができるだけ自施設でも継続できるように、日課の散歩や花の手入れ・衣類の整理など、個人でやられてこられたように職員は見守り支援に努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝、体温・血圧・脈・排便・食事量・水分量などをチェックし、状態把握に努めている。月に1回は体重測定、月に3回は血中酸素飽和度の測定も行っている。異常があれば、1日の中で定期的に測定をしている。いつも体調を管理しながら、その方の能力に応じたもの（散歩・家事・レク）などをして頂いている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1回、ほぼ全員の職員がミーティングに参加し、それぞれが事前に記入した利用者の課題や意見をもとにケアプランを作成している。医療面に関しては他職種の見解を参考にしている。ご家族にも外出支援の協力もして頂いている。	介護計画は3ヶ月毎に見直している。計画作成は、月初めに職員それぞれが該当する利用者に対する問題点・気づきや課題をケアプラン検討用紙に記載し、ミーティングにおいて職員全員で話し合い、職員全員がプラン内容を把握し実施する。介護計画は家族へ直接説明し同意の署名をもらっている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護記録には、その日のできごとや、利用者の言動を詳しく記載するよう心がけている。また、ケアプランの実践に関する変化や状況はモニタリング用紙に記入している。気づきや工夫・ケアの変更等があれば、職員間で共有するため、申し送りノートに記入している。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入院時のお見舞い・洗濯物の受け取りをおこなっている。また、利用者それぞれのかかりつけ病院の受診・他科の支援、緊急時の受診対応もおこなっている。利用者のその日の気分や行動によって、その時にお出かけしたり、業務を変えたりと柔軟性を持つよう努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域では、自主防災組織というものがあり、その組織と利用者・職員とともに自施設の火災訓練を行っている。地域の夏祭り・防災勉強会など、催し物に積極的に参加するよう努めている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者・ご家族が希望されるかかりつけ医に診察してもらうことができるよう支援している。自施設の協力病院とは24時間365日相談・受診ができるように体制をとっている。	かかりつけ医は希望する医療機関の受診が可能である。協力医は月に2回往診し、それ以外の医療機関を希望する場合は職員が受診介助している。情報の伝達は電話が主だが、2ヶ月に1度情報報告書を作成し、家族へ詳細を説明している。	
33	—	○看護職との協働  介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々のケアの中で、気づいた事は随時看護師に報告するよう努めている。看護師が不在の時は、個別に作成している看護日誌に記載し、看護師と情報共有できるように努めている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入居者が入院された際、施設生活の情報を病院にお伝えしている。環境が変わっても御本人が少しでも安心できるように、自施設の職員・入居者で寄せ書きを作成している。入院中の経過を定期的にご家族や看護師等にお聞きしている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	自施設の現状を踏まえ、これまでの方針を再検討し、新たに作成した方針を昨年の9月の家族会にてご説明させて頂いた。家族会に欠席されていたご家族にも面会時ご説明させて頂いた。新規入居された利用者には、入居説明時にご説明させて頂いている。	重度化や終末期のあり方を検討し、新たな方針を作成し、家族会でも同意を得た。方針は利用開始時に説明し、同意を書面で取り交わしている。また、必要時には家族やかかりつけ医を含め、改めて話し合う。職員の入れ替わりもあり、重度化や看取りの方針を、常に職員全体が理解しているかの確認を、管理者にはお願いをしたい。	
36	—	○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	外部研修にて救急要請の訓練や心肺蘇生等の学習を行っている。職員が急変時に円滑に対応できるように写真入りのマニュアルを作成し、目に付くところに掲示している。また、救急搬送依頼書・基本情報のファイルを作り、お薬手帳と一緒に一箇所に集約している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災・地震・風水害の各マニュアルを作成しているが、実際の訓練では火災のみ実施している。火災訓練は、年2回実施しており、ほぼ夜間を想定して行っている。訓練の際は、ほぼ全職員と地域の自治会役員の方、近隣住民の方、消防署職員が参加し、終了後は意見交換を行っている。また、地域主催の防災勉強会にも参加している。	マニュアルがあり、年に2回の避難訓練は消防署や地域住民・家族の参加を得て行っている。実践を通して、地域住民の提案により、より安心で安全な対応ができるよう常々改善されている。非常用備蓄は事業所内に準備されているが、適切な物量等については、検討していただきたい。	非常用備蓄の適切な物量については、消防署に確認していただき、万一の事態に備え、常に整理や期日管理を職員が行っていく体制の確立をお願いしたい。
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ誘導はカーテンや居室の扉を閉めて行っている。トイレの声かけも周囲に知られないように配慮している。トイレの見守りの際にも、本人から職員が見えないように配慮している。職員間で情報共有する際、排尿のことを「1番」排便のことを「2番」と呼ぶようにしている。また、利用者のことについて話すときはイニシャルを使ったりしている。	事業所独自の「利用者のプライバシー保護に関する対応の取り決め」を作成し、利用者の誇りやプライバシーに配慮している。その内容は、勉強会でも話し合わせ、職員一人ひとりに周知され理解している。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	物事を進めるときは、何うような声かけを心がけている。その時に、御本人の表情を観察して、遠慮されていないかなど配慮している。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の方々が同じリズムではないことを念頭において、職員が各利用者の訴えや動きに合わせて行動するよう努めている。何らかの言動があったときは、職員業務の手を休め、利用者に対応するよう努めている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時に洗顔・髪や衣服の身だしなみを整えるように、声掛け・介助をしている。また、外出時や行事の際は、相談しながらおしゃれを楽しんで頂けるように支援している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の能力に合わせて、調理や下ごしらえ、食器の片付けなど、職員と一緒にやっている。食事をしながら会話し、楽しく食事ができるように努めている。	利用者は職員とともにできる限り一緒に準備から後片付けまで行っている。家庭菜園で収穫した食材が食卓に並び、食事が楽しくなる工夫がなされている。献立は、利用者の嗜好を把握し、職員が作成している。ひとりの職員が同じ食事を利用者と一緒に摂っている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食時、食事量をチェックしている。水分チェック表を作成し、1日1000ccを目安に飲水を促してチェックしている。利用者の咀嚼・嚥下状態を把握し、食事形態を個別に変えている。		
44	—	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っており、うがいの際は、風邪予防も兼ねて、イソジンを使用している。胃ろうの利用者も、毎日口腔ケアをしている。義歯は夜間帯にポリドント消毒をしている。口腔内に異常があれば、訪問歯科と連携を取るようになっている。		
45	19	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各利用者の排泄パターンを把握し、それを元にトイレ誘導してできるだけ失敗しないように努めている。排泄が自立されている利用者は、排便確認が困難なので、排便があったらコールを鳴らすよう、トイレに張り紙をしている。	排泄はそれぞれの排泄パターンを把握し、誘導は定時及び随時行っている。また、一人ひとりのサインを把握し、さりげなく声かけをして排泄の自立につなげている。失禁した際も、周囲に気づかれないような言葉かけを工夫し、対応している。おむつやパットの使用について、検討や見直しを常に行っている。	
46	—	○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分チェック表を用いて、飲水状況を把握したり、食事は消化がよいように柔かめに行っている。医師に相談の上、排便状況によって、便通の薬の調節している。便秘の際は、いつの下剤を服用していただくか、個別に取り決めをしている。毎朝ラジオ体操に加えて、軽い運動をして便秘予防に努めている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	入浴日は月・水・金と決められているものの、1日かけて入浴しているもので、1日の中でどの時間帯に入りたいのか、できるだけ利用者の意向に沿ったタイミングで入浴していただくよう努めている。入浴の際は職員との会話を楽しめるよう努めている。	入浴は週に3回行っているが、ユニット別に毎日入浴が可能であり、失禁等の際の急な対応も可能である。入浴を拒否する利用者には、言葉かけや時間をずらす等の工夫をして、気持ちよく入浴でき、清潔が保たれている。	
48	—	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の生活リズムはそれぞれ違うことを理解し、利用者の行動や表情から休息が必要な時を見極めるよう心がけている。安心して休息できるような声かけや誘導の工夫を日々の活動の中で心がけている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各利用者全ての薬の作用・副作用をについて理解しているとはいえないが、医師の指示通りに服薬介助している。誤薬がないように、日付・いつ・名前を声に出して、飲み込むまで確認している。薬が変更になった際は、その薬の効果を観察し、次の受診の際に、医師に報告している。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事を中心に、利用者の能力にあった作業をして頂くことで、生活の中で役割をもっている。また、花の世話・縫い物・歌・散歩など、御本人が得意なことや、好きなことができるように努めている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的には、屋外で散歩などができるように努めている。ご家族との外出・外泊なども要望があれば、行っていただいている。月に1回は、行事として車での出掛けを計画するようにしている。時折、外食・地域の行事への参加も行っている。	外出は日常的に行われている。月に1度はバスハイクに行き、季節の移り変わりが体感できる。心身の状態で参加できない利用者は散歩や買い物を通じて社会とのつながりを保つことができるよう工夫している。毎年恒例で山笠見物にも行っている。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部の利用者ではあるが、お金を所持して頂き、買い物等の支援を行っている。また、お金を所持していないことに不安がある利用者にも、所持して頂いている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があれば、電話や手紙のやり取りができるようにしている。積極的な支援ではないが、暑中見舞いや年賀状などのやり取りができる支援を行っている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日中はできるだけ自然の光を取り入れるように心がけている。冬はフロアや各居室を加湿するよう注意を払っている。季節感を感じられるよう、一月ごとにフロアの壁飾りを変更している。	照明は間接照明の温かい光で落ち着く雰囲気を保たれている。職員の声やテレビの音もちょうどよい大きさである。壁や空間に利用者が作った飾りや行事の写真が掲示されている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者が集まるフロアには、テーブルイスのみではなく、隅の方にソファなどを置いたりして、それぞれ横になったり、移動してくつろげるように配慮している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には見慣れた物・使い慣れた物を持って来て頂くよう声かけしているが、十分には活かしきれていない。自施設で作った飾りものを飾って雰囲気作りに努めている。ご家族より昔の写真を飾ったりして頂いている。	居室には花の名前がついており、入口には利用者の写真が飾られている。部屋の中はそれぞれが居心地よく過ごせるよう家族との写真、使い慣れた家具、自身が作った人形等が飾られている。ベッド上の照明は布で覆い、柔らかい光が更に心地よく過ごせるよう工夫されている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者をご自分の居室が理解できるよう、居室入り口に目線の高さに合わせて、手作りの表札を設置している。入浴時にはお風呂の入口にのれんを設置している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	① ほぼ全ての家族と
				② 家族の2/3くらいと
				③ 家族の1/3くらいと
				④ ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	① ほぼ毎日のようにある
				② 数日に1回程度ある
				③ たまにある
				④ ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	① 大いに増えている
				② 少しずつ増えている
				③ あまり増えていない
				④ 全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	① ほぼ全ての職員が
				② 職員の2/3くらいが
				③ 職員の1/3くらいが
				④ ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての利用者が
				② 利用者の2/3くらいが
				③ 利用者の1/3くらいが
				④ ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての家族等が
				② 家族等の2/3くらいが
				③ 家族等の1/3くらいが
				④ ほとんどいない

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【I 理念に基づく運営】</b>					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念として、4つの項目をかねており、毎日の朝礼の際に、唱和している。利用者のケアの方向性で迷いが生じた場合に、理念に添っているのか振り返るように心がけている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会加入し、地域主催の防災勉強会や防災炊き出し会、夏祭などに参加している。また、自施設の火災訓練に地域の方も参加し、意見交換も行っている。地域の老人会にて、自施設職員による介護関係の講習会も実施している。地域に「菜の花会」というカラオケ同好会があり、事業所にお招きして利用者に歌・寸劇を披露していただいている。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の老人会にて、老人ホームの種類と認知症についての講習会を公民館でおこなったり、介護技術講習会を行ったりしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、事故報告やヒヤリハット報告・状況報告などをおこなっている。また、行事報告やその他、自施設の連絡事項を伝えている。参加者から出た意見は議事録に残し、検討している。		
5	4	○市町村との連携  市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所職員の方々に運営推進会議に出席していただき、入居者の状況や自施設の取り組みを伝えている。また、自施設を運営する上で、疑問点がある場合は相談させてもらっている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践  代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は常時施錠しないようにしている。また、ミーティング等で利用者の活動性や認知症の周辺症状について検討し、できるだけ不要な精神薬等は外すように随時検討している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修にて理解を深めている。管理者が夜間を中心に利用者の状況や職員の状態を、申し送りやユニットリーダーを介して把握し、注意を払っている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居契約説明の際に、ご家族にパンフレットをお渡しして説明をしている。権利擁護に関する外部研修を受け、その内容を自施設の内部研修にて全職員で学習している。		
9	—	○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約説明の際には、重要事項説明書・入居契約書の各項目に添って説明し、説明後は各書類ごとに疑問点がないか確認している。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケアプランの説明の際に、要望を聞くようにしている。また、2ヶ月に1回お送りしている状況報告書に、ご意見や要望を記入する欄を作り、玄関に設置している意見箱に投書できるようにしている。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングの際は、職員全員の意見を聞くため、個別に検討用紙に記入して頂いている。また、業務の変更や、新しく何かに取り組む際は、各ユニットリーダーに相談して、現場の意見を聞くようにしている。		
12	—	○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自施設独自の職員評価表に基づき、年3回の面接を実施している。その際にその職員の良い点・改善点・悩み事・次回面接までの自己目標の話をしている。職員の努力や実績に応じて、パート常勤を正社員常勤に昇格することを検討している。職員のリフレッシュの為、会社主催で夕食会を実施している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の募集・採用については、年齢制限などなく、面接の印象や質問に対する答えなどで検討している。職員がプライベートでも充実できるように、勤務表を作る際は、公休希望を聞き入れている。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	業務中に身体拘束を兼ねて指導はしているが、研修を受けるなど、積極的に取り組めていない。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に1回、勉強会を開催し、担当職員にテーマを決めて頂き、自己学習して発表する機会をつくっている。外部研修は経験に応じた研修内容を選び、随時受講している。認知症実践者研修については、1人ずつ受講していたくようにしている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	本年度4月より、グループホーム協議会に加入した。まだ一部の職員に限られているが、協議会の集まりの際に他事業所と交流する機会を設けている。取り組み始めの状態である。		
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居後、声かけにて不安なことがないか聞くようにしている。また、御本人のささいな言動を介護日誌に細かく記載するように心がけている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居される際に、ご家族が自宅で介護される際に困っていたことや、施設でどのような生活を希望されるのか聞くようにしている。入居前に病院や施設に入所されていた場合は、入所先に訪問し、情報収集している。居宅におられた場合は、担当ケアマネージャーから情報収集している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援  サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入前に御本人の情報を集めたり、面会に行くなどして、入居時にまず支援しなければならないことが見極められるよう努めている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の現在の能力を把握し、日常生活における食事作り・片付け・洗濯もの等の家事や、共同スペースなどの季節に応じた飾りつけなどを職員とともにやっている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	季節毎の衣類の衣替えや、クリーニング・生活用品の購入など、身の周りのことをご家族と相談している。また、ご本人のストレス緩和のため、ご家族とのお出かけをお願いしている。お出かけが安全に行えるよう、ご家族に外出先での留意点等もお話ししている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族が営んでいるお店に出向いたり、以前住んでおられた場所の風景を見に行ったりしている。また、ご親戚・友人の方々の面会も特に制限なく、電話や手紙があればご本人にお伝えしたり、お返事したりの支援を行っている。暑中見舞いや年賀状作成の支援もおこなっている。ご家族やご本人の要望にあわせて、入居前のかかりつけ病院の受診等もやっている。		
23	—	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常、フロアで大きなテーブルを囲み、利用者同士の会話やレクリエーション・食事など、一日の大半をフロアで過ごせるようにしている。職員はフロアを空けないように意識し、利用者同士がコミュニケーションを取れるように努めている。寝たきりの利用者も1日に1回から2回フロアお連れし、他の利用者とのコミュニケーションが取れるようにしている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	すべての利用者ではないが、節分の時にスタッフが以前入居されていたご家族の自宅を回ったり、亡くなられた利用者の仏壇にお線香あげに行ったりしている。逆に自施設にお茶を飲みに来られるご家族もおられる。退去された利用者のご家族より、物品の寄付等のご連絡も頂いた。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
25	12	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人やご家族より、今まで歩いて来られた生活歴や仕事・趣味などを伺い、現在の暮らしを通してご本人の希望や苦手なものの把握に努めている。寝たきりや思いが伝えられない利用者には積極的に話しかけることで、返ってきた表情や行動から意向の把握に努めている。		
26	—	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活ができるだけ自施設でも継続できるよう、日課の散歩や花の手入れ・衣類の整理など、個人でやられてこられたように職員は見守り支援に努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝、体温・血圧・脈・排便・食事量・水分量などをチェックし、状態把握に努めている。月に1回は体重測定、月に3回は血中酸素飽和度の測定も行っている。異常があれば、1日の中で定期的に測定をしている。いつも体調を管理しながら、その方の能力に応じたもの（散歩・家事・レク）などをして頂いている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1回、ほぼ全員の職員がミーティングに参加し、それぞれが事前に記入した利用者の課題や意見をもとにケアプランを作成している。医療面に関しては他職種の見解を参考にしている。ご家族にも外出支援の協力もして頂いている。		
29	—	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護記録には、その日のできごとや、利用者の言動を詳しく記載するよう心がけている。また、ケアプランの実践に関する変化や状況はモニタリング用紙に記入している。気づきや工夫・ケアの変更等があれば、職員間で共有するため、申し送りノートに記入している。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入院時のお見舞い・洗濯物の受け取りをおこなっている。また、利用者それぞれのかかりつけ病院の受診・他科の支援、緊急時の受診対応もおこなっている。利用者のその日の気分や行動によって、その時にお出かけしたり、業務を変えたりと柔軟性を持つよう努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域では、自主防災組織というものがあり、その組織と利用者・職員とともに自施設の火災訓練を行っている。地域の夏祭り・防災勉強会など、催し物に積極的に参加するよう努めている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者・ご家族が希望されるかかりつけ医に診察してもらうことができるよう支援している。自施設の協力病院とは24時間365日相談・受診ができるように体制をとっている。		
33	—	○看護職との協働  介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々のケアの中で、気づいた事は随時看護師に報告するよう努めている。看護師が不在の時は、個別に作成している看護日誌に記載し、看護師と情報共有できるように努めている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入居者が入院された際、施設生活の情報を病院にお伝えしている。環境が変わっても御本人が少しでも安心できるように、自施設の職員・入居者で寄せ書きを作成している。入院中の経過を定期的にご家族や看護師等にお聞きしている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	自施設の現状を踏まえ、これまでの方針を再検討し、新たに作成した方針を昨年9月の家族会にてご説明させて頂いた。家族会に欠席されていたご家族にも面会時ご説明させて頂いた。新規入居された利用者には、入居説明時にご説明させて頂いている。		
36	—	○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	外部研修にて救急要請の訓練や心肺蘇生等の学習を行っている。職員が急変時に円滑に対応できるように写真入りのマニュアルを作成し、目に付くところに掲示している。また、救急搬送依頼書・基本情報のファイルを作り、お薬手帳と一緒に一箇所に集約している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災・地震・風水害の各マニュアルを作成しているが、実際の訓練では火災のみ実施している。火災訓練は、年2回実施しており、ほぼ夜間を想定して行っている。訓練の際は、ほぼ全職員と地域の自治会役員の方、近隣住民の方、消防署職員が参加し、終了後は意見交換を行っている。また、地域主催の防災勉強会にも参加している。		
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ誘導はカーテンや居室の扉を閉めて行っている。トイレの声かけも周囲に知られないように配慮している。トイレの見守りの際にも、本人から職員が見えないように配慮している。職員間で情報共有する際、排尿のことを「1番」排便のことを「2番」と呼ぶようにしている。また、利用者のことについて話すときはイニシャルを使ったりしている。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	物事を進めるときは、何うような声かけを心がけている。その時に、御本人の表情を観察して、遠慮されていないかなど配慮している。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の方々が同じリズムではないことを念頭において、職員が各利用者の訴えや動きに合わせて行動するよう努めている。何らかの言動があったときは、職員業務の手を休め、利用者に対応するよう努めている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時に洗顔・髪や衣服の身だしなみを整えるように、声掛け・介助をしている。また、外出時や行事の際は、相談しながらおしゃれを楽しんで頂けるように支援している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の能力に合わせて、調理や下ごしらえ、食器の片付けなど、職員と一緒にやっている。食事をしながら会話し、楽しく食事ができるように努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食時、食事量をチェックしている。水分チェック表を作成し、1日1000ccを目安に飲水を促してチェックしている。利用者の咀嚼・嚥下状態を把握し、食事形態を個別に変えている。		
44	—	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っており、うがいの際は、風邪予防も兼ねて、イソジンを使用している。胃ろうの利用者も、毎日口腔ケアをしている。義歯は夜間帯にポリドント消毒をしている。口腔内に異常があれば、訪問歯科と連携を取るようになっている。		
45	19	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各利用者の排泄パターンを把握し、それを元にトイレ誘導してできるだけ失敗しないように努めている。排泄が自立されている利用者は、排便確認が困難なので、排便があったらコールを鳴らすよう、トイレに張り紙をしている。		
46	—	○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分チェック表を用いて、飲水状況を把握したり、食事は消化がよいように柔かめにしていく。医師に相談の上、排便状況によって、便通の薬の調節している。便秘の際は、いつかの下剤を服用していただくか、個別に取り決めをしている。毎朝ラジオ体操に加えて、軽い運動をして便秘予防に努めている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	入浴日は月・水・金と決められているものの、1日かけて入浴しているため、1日の中でどの時間帯に入りたいのか、できるだけ利用者の意向に沿ったタイミングで入浴していただくよう努めている。入浴の際は職員との会話を楽しめるよう努めている。		
48	—	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の生活リズムはそれぞれ違うことを理解し、利用者の行動や表情から休息が必要な時を見極めるよう心がけている。安心して休息できるような声かけや誘導の工夫を日々の活動の中で心がけている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各利用者全ての薬の作用・副作用について理解しているとはいえないが、ミーティングの際には、その利用者が服用している薬の確認をしている。医師の指示通りに服薬介助している。誤薬がないように、日付・いつ・名前を声に出して、飲み込むまで確認している。薬が変更になった際は、その薬の効果を観察し、次の受診の際に、医師に報告している。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事を中心に、利用者の能力にあった作業をして頂くことで、生活の中で役割をもっている。また、花の世話・縫い物・歌・散歩など、御本人が得意なことや、好きなことができるように努めている。		
51	21	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的には、屋外で散歩などができるように努めている。ご家族との外出・外泊なども自由に行っていたりしている。月に1回は、行事として車での出かけを計画するようにしている。時折、外食・地域の行事への参加も行っている。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部の利用者ではあるが、お金を所持して頂いている。また、お金を所持していないことに不安がある利用者にも、所持して頂いている。		
53	—	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があれば、電話や手紙のやり取りができるようにしている。積極的な支援ではないが、暑中見舞いや年賀状などのやり取りができる支援を行っている。ご家族からご本人に贈り物が届いたときは、お礼の電話ができるよう支援している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日中はできるだけ自然の光を取り入れるように心がけている。冬はフロアや各居室を加湿するよう注意を払っている。季節感を感じられるよう、一月ごとにフロアの壁飾りを変更している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者が集まるフロアには、テーブルイスのみではなく、テレビの前にソファなどを置いたりして、ちょっとしたリビング空間を作っている。それぞれ横になったり、移動してくつろげるように配慮している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には見慣れた物・使い慣れた物を持って来て頂くよう声かけしているが、十分には活かしきれていない。自施設で作った飾りものを飾って雰囲気作りに努めている。ご家族より昔の写真を飾ったりして頂いている。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者をご自分の居室が理解できるよう、居室入り口に目線の高さに合わせて、手作りの表札を設置している。入浴時にはお風呂の入口にのれんを設置している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 （参考項目：9, 10, 21）	○	① ほぼ全ての家族と
				② 家族の2／3くらいと
				③ 家族の1／3くらいと
				④ ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：2, 22）	○	① ほぼ毎日のようにある
				② 数日に1回程度ある
				③ たまにある
				④ ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）	○	① 大いに増えている
				② 少しずつ増えている
				③ あまり増えていない
				④ 全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 （参考項目：11, 12）	○	① ほぼ全ての職員が
				② 職員の2／3くらいが
				③ 職員の1／3くらいが
				④ ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての利用者が
				② 利用者の2／3くらいが
				③ 利用者の1／3くらいが
				④ ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての家族等が
				② 家族等の2／3くらいが
				③ 家族等の1／3くらいが
				④ ほとんどいない